

No	頁	項目	意見	対応	市町村名
1	1	計画策定の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 3段落目の「また、～」が始まる文章のうち、「出産、～退職せざるを得ない」と「再就職した後は、～見合わない仕事」は2つともその後の「雇用の場での不利な状況」を修飾する内容に思われるが、前半は状況を説明する分の体裁、後半は「～仕事」と名詞で終わっているため体裁が異なり、文章に違和感がある。「～退職せざるを得ない」を「～女性たちの望まない退職」や「～女性たちのやむを得ない退職」など、名詞で終わる形にしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の部分について、<u>文章を整理しました。</u> 	那珂市
2	4	「1 少子高齢化と人口減少社会」のデータについて	<ul style="list-style-type: none"> 「総人口」の後のデータ分析は「年少人口」のものでしょうか。「生産年齢人口」だとしたら、「91万人、44%の減少」になると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の箇所は「生産年齢人口」として<u>修正</u>しました。 	日立市
3	7	「総人口に占める75歳以上の人口割合…」部分の説明	<ul style="list-style-type: none"> 「要介護認定を受ける人の割合が大きく増加します」について、読み取れるところがなかったです。他が説明の後ろにデータが付いていたので、あるとわかりやすかったのかなと思いました。なくても容易に想像はできますが。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見をふまえ、<u>茨城県の要介護者の認定状況のデータを追加</u>しました。 	日立市
4	9	「令和元年度県民意識調査によると、ワーク・ライフ・バランス…」部分のデータ	<ul style="list-style-type: none"> 「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい」が男女とも約3割…」となっていますが、上の段の同じような分析の説明が67.3%となっていたので、ここも32.1%としても良いのかなと感じました。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり「<u>32.1%</u>」へ<u>修正</u>し、<u>文章をわかりやすく整理</u>しました。 	日立市
5	16	基本目標 I - 施策の方向性 2 〈現状と課題〉	<ul style="list-style-type: none"> 県は女性活躍推進法の所管が変わったことから、雇用の部分については「茨城県女性活躍推進計画」の改訂の過程で、本基本計画とは切り離して、課題の分析と施策の検討がなされると推察します。両計画のすみ分けは、本素案の記載からは判然としませんが、少なくとも、雇用の分野における本県独自の政策課題を明記すべきではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県女性活躍推進計画(平成29年3月策定)では、政策課題については「4 計画策定の背景」に記載しています。 一方、本計画では「II 男女共同参画を取り巻く潮流」において、県及び全国の状況や課題を記載するとともに、「施策の方向性」毎にも課題を記載しております。 ご指摘の「雇用の分野」に関連するものとしては、 <ul style="list-style-type: none"> ▶12ページ(3 働き方の変化) ▶17ページ(基本目標 I - 施策の方向性 3 - 〈現状と課題〉二つ目の○ などに記載しておりますが、改めて、以下の文章を16ページ〈現状と課題〉の3つ目の○として<u>追加</u>しました。 ○ 20代、30代の既婚女性は、同年代の既婚男性・未婚女性と比べ労働力率が大きく下回っていることから、働くことを希望する全ての人がある能力を十分に発揮することができるよう、個々の事情に応じた多様な働き方を選択できる環境の整備が必要です。 	水戸市

茨城県男女共同参画基本計画(素案)(第4次)に関する市町村意見照会結果および対応

資料2-2

No	頁	項目	意見	対応	市町村名
6	16	基本目標Ⅰ 施策の方向性2<主な 取組>(1) ワーク・ライフ・バラ ンスの実現について	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業における働き方改革は、取り組むべき課題と認識しながらも、人材不足等により取り組みが進まない現状にある。多くの事例による学びの機会のほか、それぞれの課題や状況に応じた専門家(ITの専門家、社会保険労務士、中小企業診断士等)の無料派遣による伴走型支援の更なる充実など実行可能な支援をお願いしたい。 企業向け啓発事業については、オンライン、アーカイブを活用するなど、時間帯を気にせず参加できるよう配慮いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、意欲ある中小企業に対し、多様な働き方と生産性の向上のコンサルティングを一体的に実施し、モデルとなる企業を育成しております。これらのコンサルティングによる取組と成果については、関係団体を通じ、広く情報発信しておりますが、今後は動画による取組事例の普及にも取り組んでまいります。 	鹿嶋市
7	16 23	基本目標Ⅰ 施策の方向性2<主な取組> (2)女性が活躍できる働き方の実現 基本目標Ⅱ 施策の方向性2<主な取組> (1)持続可能で多様な働き方の実現	<ul style="list-style-type: none"> p16(2)女性が活躍できる働き方の実現及びp23(1)持続可能で多様な働き方の実現の説明文を「出産・育児・介護など様々な制約をもつ女性」と表現した場合、育児・介護は男性も行うことができるが、女性が行うことを前提とした言い方となっていると感じるため、「出産・育児・介護を担う人」等性別を特定しない方が良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、性別を特定しないように、「出産・育児・介護など様々な制約を持つ女性」の「女性」の部分で「人」に修正しました。 	鉾田市
8	17	基本目標Ⅰ 施策の方向性3 地域における男女共同参画の推進(現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> 2つ目の○「大学等の卒業後に～特に若い世代の女性の県外流出が進み」という部分について、そのように考察される根拠が示されていないため、それによりどうして労働力人口の減少が予測されるのか理解できない。また、「若者の地元定着や、時代が必要とする人材の育成」が地域における男女共同参画の推進になぜ必要とされているのかが不明。「時代が必要とする人材」とは何か不明。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見をふまえ、<u>茨城県の年齢階級別転出入のデータを追加</u>しました。 ご指摘の<現状と課題>は、地域経済を支えている中小企業などは人手不足が喫緊の課題となっていることから、地域における男女共同参画・女性活躍の推進は、優秀な人材の確保・定着につながり、地域経済の持続的な発展に不可欠であるとの認識に基づいて整理しました。併せて、若者の地元定着や時代が求める人材の育成に取り組むことで、様々な視点が確保され、男女共同参画・女性活躍の推進にも資するものと考えます。 	那珂市
9	17	基本目標Ⅰ 施策の方向性3<主な取組>(3)	<ul style="list-style-type: none"> 施策の方向性(4)科学技術・学術における男女共同参画の推進とするのであれば、農林水産業においても「農林水産業における男女共同参画の推進」として、特出ししてもよいのではないかと(茨城県は農業産出額全国第3位) 	<ul style="list-style-type: none"> 施策の方向性3を「<u>地域・農山漁村</u>における男女共同参画の推進」と変更しました。 	那珂市
10	17 , 24	基本目標Ⅰ 施策の方向性3 基本目標Ⅱ 施策の方向性4	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標Ⅰ 施策の方向性3, 基本目標Ⅱ 施策の方向性3, 4に関しても、その根拠となるデータなどが何かあるとよいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見をふまえ、基本目標Ⅰ3地域における男女共同参画の推進については、<u>茨城県の年齢階級別転出入のデータを追加</u>しました。 基本目標Ⅱ(3)生涯を通じた健康支援については、<u>全国の平均寿命と健康寿命の推移のデータを追加</u>しました。 	水戸市

No	頁	項目	意見	対応	市町村名
11	23	基本目標Ⅱ 施策の方向性2<主な 取組>(4)	<ul style="list-style-type: none"> 本計画において、施策の方向性2<主な取組>4「多様性を認め合う社会へ向けて」は、新たな取組であると思います。どのような現状と課題があつて、この取組を導き出したのか明記していただきたいと思ひます。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見をふまえ、<現状と課題>の部分に以下の文章を追加しました。 「○ いじめや人権侵害など様々な問題が発生していることから、一人ひとりが人権を尊重し、多様性を認め合い、誰もが個性と能力を發揮できる社会づくりが求められています。」 また、1ページ「策定の趣旨」においても、<u>多様性に関する記載を追加し、文章を整理</u>しました。 	水戸市
12	23	基本目標Ⅱ 施策の方向性2<主な 取組>(2) 「困難を抱える子ども への支援」	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画の視点に立った支援だと思ひますが、ここだけ見ると、貧困の子ども支援だけ特化して見えます。 「子供」「子ども」の表記を統一したほうがよいと思ひます。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘部分に関する「施策の方向性」の標題を「男女共同参画の視点に立った生活上の困難に対する支援と多様性を尊重する環境の整備」としており、男女共同参画の視点に立った支援であることを記載しているのので、<主な取組>の表現は原文のままとします。 ご指摘の点は、「<u>子ども</u>」に統一しました。 	笠間市
13	23 28	基本目標Ⅱ 施策の方向性3 生涯を通じた健康支援 基本目標Ⅲ 施策の方向性2 キャリア教育による将来の目標づくり	<ul style="list-style-type: none"> 男女の身体的性差、異なる健康課題(特に女性のパフォーマンスに大きく影響を与える月経や妊娠・出産など)に対する理解を深めることは男女共同参画社会の形成の大前提である。特に、高校生など若年世代において、それらを理解したうえで暮らし方、働き方が自己決定できるよう体系的な学習機会の充実を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 24ページに「月経など体に関するしくみや、エイズ・性感染症やがんに関する正しい知識が身に付くよう、児童生徒を対象とした講演会を実施するとともに、各種防止教室(飲酒・喫煙・薬物乱用)を開催するなど、健康教育の充実を図ります。」と記載しました。また、御意見の内容につきましては、担当課へお伝えし、実際の施策を実施するうえでの参考とさせていただきます。 	鹿嶋市
14	23	基本目標Ⅱ 施策の方向性2<主な取組>(4) 多様性を認め合うダイバーシティ社会へ向けて 等	<ul style="list-style-type: none"> ここで言う「マイノリティ」とは何か。「各分野における性別、人種、～価値観」と並列されている言葉とは性質が異なると思われ、文章に違和感がある。(性別、人種は全体を示す言葉だが、「マイノリティ」はそれらの少数派を示す言葉であるため) 	<ul style="list-style-type: none"> 県総合計画における表現を踏襲しておりますので、<u>原文のまま</u>とします。 	那珂市
15	25 26	基本目標Ⅱ-施策の方向性(3)	<ul style="list-style-type: none"> 二番目の○と(3)に記述のある「人生100年時代」と「人生百年時代」の100はどちらかに統一した方がよいと思ひます。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の箇所については、「<u>百年</u>」に統一しました。 	鉾田市
16	25	基本目標Ⅱ 施策の方向性3<主な取組>(3) 人生百年時代を見据えた健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「ヘルスロード」について説明が必要では。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、「いばらきヘルスロード(誰でも安全に歩くことができる身近なウォーキングコース)」と修正しました。 	那珂市

No	頁	項目	意見	対応	市町村名
17	25	基本目標Ⅱ 施策の方向性4<主な取組>(1) 防災・復興における男女共同参画の推進の(主な取組)について	<ul style="list-style-type: none"> 災害が発生し、県内で避難所が開設された場合の、県の男女共同参画センター(ダイバーシティ推進センター)の役割について計画には明記しないのですか？ 例えば、避難所開設市町村に対して避難所内の環境改善の提案や必要物資・支援についての情報提供、避難所内での暴力等被害の相談窓口について情報提供や予防啓発など。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の運営管理、生活環境の整備等に関する業務は市町村が行うこととなりますが、県地域防災計画では、災害が発生した際には、防災・危機管理部をはじめとした関係部局が中心となり、男女共同参画の視点に配慮した避難所づくりの支援を行うこととしております。 なお、ダイバーシティ推進センターでは、男女共同参画担当部署と防災関係部署が連携して、防災をテーマとした研修会を開催するなど、意識啓発等の事業を実施してまいります。記載内容につきましては、<u>原文のまま</u>といたします。 	取手市
18	27 28	基本目標Ⅲ施策の方向性2<主な取組> (4)正しいメディアとのつきあい方	<ul style="list-style-type: none"> 27ページ<現状と課題>を読んでも、28ページ「(4)正しいメディアとのつきあい方」の主体が青少年に限定される理由が理解できない。メディアリテラシーを向上させる取り組みは世代を問わず必要とされることだと思う。また、メディアリテラシーを向上させる取り組みと青少年の安心安全なインターネット利用を図るための情報モラル教育が結びつかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、「正しいメディアとのつきあい方」の主体が青少年に限定されるものではありませんが、<主な取組>(3)生涯にわたる学びのすゝめにおいて、ICT学習やリカレント教育を推進し、生涯にわたる学びの機会を提供することとしておりますことから、(4)正しいメディアとのつきあい方においては、青少年に関する記載とし、内容の重複を避けました。 ご意見の内容を踏まえまして、施策の方向性(2)教育・メディア等を通じた男女双方の意識改革・理解の促進<現状と課題>3つ目の○中の「メディアリテラシー(メディアを選択し、主体的に読み解き、自己発信する能力)」を「ICTメディアリテラシー(単なるICTメディア(パソコン、携帯電話など)の活用・操作能力のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力までを含む考え方や情報の正確性や妥当性を検証する能力」と修正し、(4)正しいメディアとのつきあい方と関連づけるようにしました。 	那珂市
19	23 28	項目名について	<ul style="list-style-type: none"> <主な取組>(1)(2)に対して、(3)「～学びのすゝめ」(4)「～とのつきあい方」は取組を示すタイトルとしては不適當に感じる。語尾が促進、推進、整備、～づくり、実現、構築などの方がしっくりくる。特に「すゝめ」はパソコンで一発変換もできず、古い表現に感じる。23ページの<主な取組>(4)「～ダイバーシティ社会へ向けて」についても同様。「～社会の推進」や「～社会の構築」の方が適當ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生涯にわたる学びのすゝめ」、「ダイバーシティ社会にむけて」、「正しいメディアとのつきあい方」は、それぞれ、「生涯にわたる学びのすゝめ」、「ダイバーシティ社会の実現」、「情報教育の推進」に変更いたしました。 	那珂市

No	頁	項目	意見	対応	市町村名
20	28 29	II 推進体制と進行管理 1 県の推進体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 1 県の推進体制の充実 の(1)から(7)までの並び順について。 施設・・・(5) 組織・・・(1), (3), (4) 個人(県民)・・・(6) 具体的施策・・・(2) 調査研究・・・(7) 個人→組織→施設→具体的施策→調査研究 などカテゴリーごとに並んでいた方がみやすいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> 御意見に基づき、<u>並び順を変更</u>しました。 	牛久市
21	29	II 推進体制と進行管理 2 連携の強化	これは、「1 県の推進体制の充実」の「組織」のカテゴリーに含める方がよいのではないかと思います。連携の強化は、推進体制の充実のひとつの手段と考えられるからです。 (例) 茨城県女性活躍・県民協働課女性活躍担当が連携の窓口となり、県民、事業者、関係団体、NPO、国、市町村など多様な主体との緊密な連携のもと、男女共同参画の社会の実現に向けた取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 御意見のように「推進体制」に含める考え方もありますが、男女共同参画があらゆる分野にまたがるものであることから、推進体制とは別に、多様な主体との連携強化を明記することが必要と考えますので、<u>原文のまま</u>といたします。 	牛久市
22	29	II 推進体制と進行管理 3 進行管理等 (1) 進行管理	<ul style="list-style-type: none"> この説明に、茨城県男女共同参画審議会を追記するのはいかがでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県男女共同参画審議会は、計画策定時にその意見を聞くことから、策定後の施策の進捗状況についても審議を行っております。 このため、「計画に基づく男女共同参画施策の実施状況や、男女共同参画に関連の深い統計調査の数値を指標として活用し、男女共同参画の進捗状況を把握するとともに、茨城県男女共同参画審議会への報告等を通じ、適切に進行管理を行います。」と<u>修正</u>しました。 	牛久市
23	全体		<ul style="list-style-type: none"> 概要版と計画書内の項目番号の表記の仕方が異なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の点につきましては、<u>統一するよう修正</u>しました。例：施策の方向性(1) → <u>施策の方向性1</u> 	水戸市
24	全体		<ul style="list-style-type: none"> 茨城県のデータに基づいた課題分析が多くを占める中、内閣府「令和2年度男女共同参画白書」出典の全国データに基づく箇所がいくつかあるのが気になりました。すべて県のデータに基づくものについて課題分析の方が論拠として良いのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県の個別データがないものや、全国調査で各都道府県の標本数が少ないものは全国データを使用しております。 	牛久市

No	頁	項目	意見	対応	市町村名
25	全体		<ul style="list-style-type: none"> 「国際的な協調及び貢献」を外された理由について、もし可能でしたら教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の「男女共同参画基本計画(第5次)素案」では、国際社会における日本の男女共同参画の取組を「(第11分野)国際的な協調及び貢献」として位置付けています。 一方、本計画では国の取組を前提として、県としての取組の方向性を示すものであることから、<u>当該分野の取組については記載しておりません。</u> なお、「2計画の基本理念」において、「国際的協調のもとで男女共同参画が推進される社会をめざす」こととしているほか、今回新たに「計画の性格」にSDGsの視点を踏まえた計画である旨を記載しました。 	日立市
26	全体		<ul style="list-style-type: none"> カタカナ言葉に難しいもの(ヘルスリテラシー、アンコンシャス・バイアス、アントレプレナーシップなど)があるため、用語解説のページが欲しい。 「ミスマッチ」「パフォーマンス」などカタカナで表記せず、日本語に言い換えた方が理解されやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料として、用語集の作成を検討しています。 なお、カタカナ言葉のうち、24ページ基本目標Ⅱ安全・安心な暮らしの実現-施策の方向性3 生涯を通じた健康支援<現状と課題>4つめの○のうち「~女性のパフォーマンスを低下させる月経関連疾患とその対応」は「月経困難症とその対応など月経に関する正しい知識」に修正しました。 	那珂市